



●パラリンピック閉会式



●ウィスラー山のオブジェの前にて



●レースで着用したユニフォーム



レースを終えて

レース後に、アルペン競技の会場であるウィスラー山の頂上まで登ると、バンクーバーオリンピックのシンボルともいえる造形物がありました。カナダの先住民族のイヌイットが石を人の形に積み重ねて作ったオブジェ「イヌクシユク」で、希望・友情・歓迎という意味があるそうです。

パラリンピックは、最初から最後まで今までの大会では経験したことのないとても素晴らしいものでした。さすがは4年に1度のビッグイベント。大変なこともたくさんありましたが、この大会を目標にがんばってきて間違いではありませんでした。感動した開会式や閉会式、とても過ごしやすかった選手村、そして夢だったパラリンピックでのレースは、忘れられない貴重な経験となりました。



市民の皆さんへ

まだ田原市に転居してきて間もない私ですが、市民の皆さんからとても温かいご声援をいただき感動しました。良い報告とまではいきませんでした。皆さんからの応援に勇気をいただき無事にゴールすることができました。今後は、皆さんに少しでもパラリンピックを身近に感じていただけるよう活動していけたらと思っています。



青年海外協力隊

エクアドル派遣レポート

田原中学校教諭 鳥居達也さん

私は青年海外協力隊として平成19年6月から南米のエクアドルに派遣され、約2年間の任期を終え田原に帰ってきました。

赴任先は、アマゾン川源流のジャンゲルにある児童数約1000名の小学校で、英語とパソコンの授業を行ってきました。パソコンは学校に一台しかなく、30人でその一台を囲んだり、頻繁に起こる停電で英語教材のCD



●エクアドルの子どもたちと一緒に



●鳥居さん

観、本当の豊さとは何かなどを一緒に考えていけたらと思います。

が使えるなくなったりしました。苦労も多かったですが、同僚のまさにラテン人らしい陽気さと、子どもたちの素朴な優しさにも助けられました。子どもたちも自由な雰囲気の中、のびのびと授業を受けていたのが印象的でした。子どもたちは午前中で学校が終わると、家で弟や妹の世話をしたり、カカオを干したり、友だちと木に登って果物を採ったり、サッカーをしたりと、たくましく生活していました。

4月からは再び日本の学校に戻りました。このエクアドルの経験を生かし、日本の子どもたちと世界の広さや、多様な価値